

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

書くこと部 研究主題 学習改善・授業改善につながる評価活動の充実
児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

第6学年国語科学習指導案

単元名 にとっておき〇〇術教えます ～生活を振り返ってコツや手順を紹介する文章を書く～

日 時：令和4年12月13日(火)5校時
児 童：中野区立平和の森小学校 第6学年1組 40名
指導者：中野区立平和の森小学校 指導教諭 松江 宜彦

1 単元の目標

- 題材について集めた情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。[知識及び技能(2)イ]
- テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にすることができる。[思考力、判断力、表現力B(1)ア]
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで文章を書き、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	○題材について集めた情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解している。(2)イ	○テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にしている。B(1)ア	○言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して、紹介したい題材についての思いや考えを文章に書いて伝え合おうとしている。 ○自らの学習課題を設定し、見通しをもって粘り強く、友達に自分が紹介したい題材について説明する文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

①「書くこと」における学習経験

4月の段階で、書くことにおける既習事項が身につけていない児童が散見された。そこで、毎週の課題として、日記活動を始めた。「始・中・終」の意識や常体・敬体の統一など、日記活動を通して指導することで、夏休みを迎えるころには、ほとんどの児童が書くことにおける基本を理解できるようになった。また、「ようこそ私たちの町へ」では、情報の収集期間をとったが、あまり収集しないまま授業に臨む児童が多く見られたことは課題と考える。マッピングを使った想の広げ方をした経験が無い児童も見受けられた。この単元では、ICT機器（iPad）を使って文章をまとめたが、ICT機器への入力に個人差が見られ、手書きよりも入力に時間がかかるために、完成作品も文字数が全体的に少なくなった。そのため、本単元の目標である「題材の選定、情報の収集、内容の検討」について、書く際にはとても重要であり、おろそかにしてはいけないことを伝えていきたい。

②他の領域との関係

1学期の「読むこと」における説明的な文章の学習では、説明する文章の構成や主張と事例との関わりをもとに筆者の意図を推論することを重点的に学習した。この学習を生かして、伝えたいことに合わせて構成や事例の挙げ方を工夫したり、主張と事例の関係を吟味したりしながら「書くこと」に生かせるとよい。

③国語の学習の進め方

授業において、各教科でICT機器の活用をしている。しかし、文章の入力においては、ICT機器への入力が付属のキーボードを使う児童より“フリック”入力をする児童のほうが多い。そのためか、社会科の新聞作成では手書きとICT機器を選択制にしたところ、児童の半数が手書きを選んでいる。そこで本単元では、最終的にはパソコン入力で紹介する文章をまとめるが、下書き段階では手書きでもICT機器入力でもよいとする。また、見通す場面では、単元のゴールとゴールに向けて本時ですべきことを説明できるように毎時間確認をしている。さらに、振り返りシートに書く活動の流れを載せることで、自分が現在どの位置にいるかを見通せるようにし、学習の見通しをもちやすくさせる。振り返りについては課題の解決状況と課題解決に向けて有効であった学び方について振り返るようにしている。

④本単元と児童の実態

友達との関わりには非常に敏感であり、デリケートである。1～5年生までは4クラスであったため、6年間同じ学級に所属したという児童は1人か2人である。しかし、初めて一緒に学級になったという児童は少なくない。さらに、4～6年とコロナの影響を受け密に関わっていないことで、友達の個性は知っているが詳しくは知らない児童も多い。一人一人がそれぞれ違う見方や考え方をもっているからこそ、よりよく生活や学習ができることを様々な学習活動を通して実感してほしい。本単元で、それぞれの児童が、自分のよさや得意なことを生かして友達のために生活や学習のコツを文章にまとめることで、互いのよさを生かしながら生活することのよさを実感できるようにしたい。

(2) 学習材について（学習材観）

前述のとおり、本学級児童の書くことの課題としては、基礎的な部分から抑える必要があり、説明的文章である本単元においては、事実と意見を区別して書くことが挙げられる。また、実態として、相手を知りつつも自己の主張はできるということや、それを自分も相手も尊重しながら進める経験をさせたい。

本学習材は、児童が日常生活において何気なく認識していることや、好んで取り入れていること、他の事よりも力を発揮していることが題材となる。題材設定の方法は、3パターンある。

同じ学級の友達に向けて「人生がほんのちょっと豊かになる」ことをテーマに文章を書き、説明する。その際、自分の経験や知識を広く深く探って題材を設定する。その題材に沿った情報を集めたり、適した情報を整理しながら適した事柄を選んだりすることを通して、考えを明確にしていくことが、考えの明確化に繋がると考える。

この、事例を挙げて意見を述べる文章を書く際に、特に考えさせたいことが大きく二つある。一つめは、本人が何気なく認識していることや、他者からのリクエストを受け、そこから考えたことを自分の意見として文章化することである。二つめは、読み手に伝わる情報や言葉を用いて書こうとする意識である。書いた

「題材設定の方法」

- ① 自分から読み手へ伝えたいと思いついたもの【自分発信】
- ② 友達から直接リクエストされたもの【リクエスト】
- ③ 学級内で広く呼びかけられていたもの【全体募集】

当人だけが納得している自分本位な意見や事例ではなく、交流や共有で文章を読んだ友達から、「うん、分かるよ。」「なるほどね。」「そういった考え方は初めてだ。試してみようかな。」などの反応を得ながら、読み手の心へ働きかけるような事例を用いるよさや、意識の大切さに気付かせていきたい。

児童がこの二点を意識して自分の考えを書き進めるにあたって、誰かに意見を聞いて確かめてみたくなったり、情報の取捨選択や構成、表現に戸惑ったりすることが予想される。そこで、児童が意欲をもち、かつ安心して書き進めるために、随所に固定のグループや自由なインタビューなど、対話を取り入れながら協働的に書く活動を設定する。また、必要に応じて書くことの過程を往復できるように、各自が学習計画に照らし合わせながら進捗を確かめてゴールへ向かうことができるようにする。

以上の事から、テーマや題材に沿った情報を収集・整理しながら、読み手である学級の友達へ伝わるように対話を通して確かめながら意見や事実についての説明を書く本学習材は、児童の実態を生かし、課題解決を図るに適したものと考える。

(3) 単元について（単元観）

本分科会では、本単元の学びを大きく2側面から捉えている。

1つめの、「知識・技能」および「思考・判断・表現」の側面については、学習材観で述べたように、考えを明確化するために、自分の経験や知識を広く深く探って題材を設定することや、その題材に沿った情報を集めたり、適した情報を整理しながら適した事柄を選んだりするよさを理解しながら用いることである。

2つめの、「学びに向かう力・人間性」の側面については、自己の学習課題についての達成状況を把握し、達成状況に応じて修正する、自己調整を行うことである。

〈柔軟な学習過程と自己調整〉

児童は、これまで学んできた書くことについての知識や技能を振り返り、改めてできるようになりたいことや更に伸ばしたいことを今回の学習課題としている。個別の学習課題を設定することで、学習活動も自分で確認・選択しながら展開していくこととなる。必要に応じて、書くことの過程を行き来できるよう柔軟に捉えて自己調整を行う。そこで、「学習振り返りシート」を活用し、毎時間の学びや学び方を振り返ったり、単元の終わりに全体を俯瞰したりする自己評価に取り組みさせる。こうした経験は、児童の主体性を促し、各自の資質・能力に合わせた個別最適な学びの在り方を実感することができ、今後の学び方を考える材料になっていくものと期待する。

〈対話〉

また、相手への興味・関心をもち、友達のよさを取り入れようとする児童が多い反面、自己主張を遠慮する児童が多い実態を生かし、学習場面や児童の必要に応じて多様な対話を意図的に取り入れた、協働的な書くことの活動が展開できると考えている。教材観でも述べたように、様々な対話を通して書きたい中心を明確にしていくことは、自分の内面を深く見つめたり、相手のものの見方や考え方に積極的に触れたりする機会ともなると考えた。

〈思考の道具〉

さらに、今回はICTを随所で活用していく。題材や情報の収集・整理・提示のほか、記述やレイアウトなど、それぞれが有用と感じた場面で適宜用いることができるようにした。毎時間の学習履歴を教師が確認して指導に還元したり、書いた成果物への児童間でのコメントによって広く簡単に共有したりするなど、本単元までに児童一人一人が自分にとって使いやすい道具の一つとしてICTを用いることができる単元である。

以上のように、自己の学習について自己調整を行い、他児童との対話を通して考えながら、自分に合った思考ツールを用いて学習の個別最適化を図る。こうした、課題解決への道筋や手助けになりそうなものを自分で探り、手に入れながら歩くことのよさを感じる経験は、多くの情報から取捨選択をしつつ直面する状況へ柔軟に対応する、これからの学びや生活へ繋がるものになるとの考えから、本単元を設定した。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本単元では、目的や意図に応じて題材を選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして考えを明確にしていくことと、物の見方や考え方を意識的に捉えていく姿が見られることを目指す。そのために、児童が自らの学習や生活の中から達成したい目標や解決したい課題を見付け、それを解決するための学習活動において、必要な知識・技能を知り得て用い、思考・判断・表現を行う経験を通して実感をもった知識を獲得していくことである。そのために、主体的・対話的な書くことの学びを促す手立てを設け、深い学びへとつながるよう指導を工夫する。まず、主体的学びへは、自分の学習課題に合った取り組み状況や進み具合を俯瞰で捉えて次の学習活動へ生かすことができるように、学習計画や学習感想による自己評価を活用する。また、対話的学びについては、交流や共有を書くことの過程に児童の必要に応じて設定し、他児童の考えに触れたり、手助けを得たりする。これらを通して、深い学びの姿が見られることを期待する。

(2) 学びの質の向上を図る指導の工夫

①単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を想定した意図

児童の実態として、友達に対して興味・関心を持ち、友達の良さを取り入れようとする児童が多い一方、自己主張ができなかったり、わからないことを受け流してしまったりする様子も見られる。そこで、テーマに沿った題材を広く募集する「オープンクエスト」を行い、書き上げた文章を友達と共有する。自分発信や他児童からのリクエストに応える形で書きたい題材についての情報を自己の経験や考えから広く集め、それらを整理・分類したり関係付けたりしながら考えを明確にしていく。

この書くことの学習活動を、ペアやグループによる対話を通して進めることで、書き手の立場からだけでは気付けないもの見方や考え方、語彙、発想などに触れたり、共感を得て安心したりすることが予想される。これらを、主体的に書き、学ぶ意欲へ生かしたい。

また、卒業まで残り三カ月余りの時期に差し掛かった児童が、これまで培ってきた書くための知識・技能を振り返って、自分の学習課題を設定する。苦手を克服するためだったり、得意分野の力を伸ばすためだったりなど、児童一人一人の実態に合わせて課題設定ができるように手立てを講じ、学習の個別化によって基礎的・基本的な知識及び技能の習得及び、学びの積み重ねを目指す。

②主体的、対話的で深い学びでの視点での授業改善につながる工夫

○特別活動と関連させた学習活動

学級や学校での生活へ主体的に関わり、日常の生活をよりよくしようとすることを目指して、本単元では特別活動において友達の生活がちょっと豊かになる、〈コツ〉〈方法〉〈〇〇の楽しみ方〉などを募集する「オープンクエスト」を行う。ここから選んだ題材について書き上げた文章を読み合い、感想をコメントし合うことで、相互理解や自己理解を深める一助になることを期待する。

○「オープンクエスト」(題材募集)の活用

自らは発想・着想が難しい児童も「友達のリクエストに応えたい。」「これなら、伝えたいことがある。」という思いが生じ、書くことへの意欲や必然性が促されると考える。また、リクエストされたり、自分で思い付いた題材を選んだりすることで、相手・目的意識がより明確なものとなることもねらう。

◎多様な文例の提示

「友達からのリクエストから題材を設定したもの」「自分が伝えたい事柄から題材を選んだもの」「資料を活用したもの」「経験などの事例を複数あげたもの」など、複数提示し、児童が自分に合ったものを選ぶことができるようにする。全体で提示する文例は3点に絞るが、必要に応じて様々な文例を参考にできるように、学習場面に即して適宜提示していく。

◎対話を通して読み手を意識した書くことの活動

書いた本人だけが納得しているような自分本位な意見や事例ではなく、読み手の心に働きかけるものとさせたい。そこで、随所に固定のグループや自由なインタビューなど、児童同士の対話を取り入れながら協働的に書く活動を設定する。これにより、客観的な視点を取り入れつることで読み手を意識して、考えを広げたり深めたりしながら書き進めることができると考える。

○学習課題の達成状況に応じた自己評価

自ら設定した課題を毎時間振り返らせることで、達成状況に応じて課題の修正を行わせる。また、単元の終わりに全体を俯瞰する自己評価は、各自の資質や能力に合わせた今後の個別最適な学びを支えていくものとなることを期待する。

○個別最適な学びを目指した学習活動を支える支援・指導の工夫

配慮を要する児童はもちろん、全ての児童が自らの学習状況に応じて学習課題を設定し、主体的に活動に取り組むことができるように支援・指導を行う。そのために、教師は、指導事項に対しての評価基準を基に各児童の学習状況を把握する。具体的には、「学習振り返りシート（児童）」や「座席表型評価簿（教師）」「ICT上の書いたもの」などから学習状況を把握して、適切な指導や支援、助言が行えるようにする。児童は、自分に合った学習課題の解決に沿った指導や支援が受けられるため、安心して学習に取り組むことができると考える。

○学びを積み重ねる手立てとしてのICTの活用

児童の書いたものをスムーズに共有することができるように、ICTを活用する。題材や情報の収集・整理・提示のほか、記述やレイアウトなど、それぞれが有用と感じた場面で適宜ICTを用いることができるようにした。また、今回の学習に関する意見や考えなどの内容に関する情報や進捗、書いた成果物への児童間コメントを行う。これにより、広く簡単に共有したり、学びの積み重ねが一目で分かりやすくなったりすると考える。さらに、ICTか手書きかは児童が選べるようにする。自分に合った道具を選んで使いながら学習活動を進める経験をさせたい。手書きを選択する場合も、写真に撮って記録するなど、画一的でなく、個々の児童の実態に合ったICT活用に留意する。

(3) 評価活動の工夫

①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

座席表を基にした評価簿を作成する。それを活用することによって、前時までの児童の実態と、本時の支援を明確にし、児童全員が「おおむね満足できる状況」を達成できることを目指す。

②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

本単元は、児童が個別の学習課題を設定したり、必要に応じて書くことの過程を往復したりする。こうした個別の学習状況を書いたものや振り返りのほか、ICTを活用して把握し、指導・支援を行う。

③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

学習計画とその進捗や、自分の学習課題を一覧できる「学習振り返りシート」を活用する。一覧できることで、自己評価が容易になり、各自が設定した学習課題や学習活動が適切であったかを確認したり、修正したりする自己調整も容易になると考える。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	指導事項	◆評価規準 ★評価方法 ○指導上の留意点
0		<ul style="list-style-type: none"> 毎週、日記（書く活動）を書く。 オープンリクエストを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「始め」「中」「終わり」を意識して書かせる。 ○リクエストは友達のすごいなど思うことに限定する。 ○自己開示を具体的にさせる。 ○友達に教えてほしいことをリクエストさせる。
1	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ 文例を読む 学習計画を立てる（個別の学習計画） 	<ul style="list-style-type: none"> 題材について集めた情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を使うことができる。[知識及び技能](2)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性をもって学習できるよう興味をもたせる。 ○2つの文例を比較させ、共通しているところを見つけさせることで、必要な要素を考えさせる。 ○書く活動の得意要素や苦手要素を考慮し、自分で必要なところを見つけられるよう支援する。 ○単元の終末（ゴール）の見通しをもたせる。 ○自分の頑張るところ（課題）を、自分で考えさせる。 ◆ [態度①]★発言、ノート、学習振り返りシート
2	3 4	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定 情報の収集を行う。（題材に沿った情報を集めるため、経験を振り返ったり、インタビューをしたりする期間を1週間程度設ける。） 内容の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にすることができる。[思考力、判断力、表現力等]B(1)ア 題材について集めた情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を使うことができる。[知識及び技能](2)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的に書ける課題設定を考えさせる。その際、自分が書きたい課題にすることを促す。 ◆ [思・判・表①]★学習振り返りシート、情報収集シート（ノート・ICT）、観察 ◆ [知識・技能①]★学習振り返りシート、情報収集シート（ノート・ICT）、観察 ◆ [態度①]★学習振り返りシート、情報収集シート（ノート・ICT）、観察
	5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 構成の検討・記述・推敲を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>個別の学習課題に沿った過程で、個々に学習を進める。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> （これまでに身に付けてきた力を生かして、一人一人構成から推敲まで進める。） 	<ul style="list-style-type: none"> ○構成の基本を提示し、児童が工夫をしやすい素地とする。 ○資料（図や表、イラストなど）を入れるか考えさせる。 ○導入（書き始め）や終末（まとめ）に筆者の考えを入れることが大切であることを伝える。

			<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題を説明する際に、資料を入れられるか、より分かりやすくなるかを考慮させる。 ○「始め」「中」「終わり」を意識して記述させる。 ○「始め」には、課題設定が分かる記述。 「中」では、小見出しと内容が一致していること。 「終わり」は読者を意識した記述になっているかを確認させる。 ○自己推敲や他児童との交流を通し、考えを整理させる。 ○友達の文章が、課題(テーマ)からずれていないかを確認させる。 ○批判するのではなく、アドバイスを行わせる。 ○資料と文章が、ずれの無いように気を付けさせ、記述させる。 ○ICT 機器を使って入力するため、誤字が無いよう留意させる。 ○入力時間の個人差が生じることに配慮する。 ◆ [態度①]★学習振り返りシート、情報収集シート(ノート・ICT)、観察
3	8	・完成した作品を友達と共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよいところを見つけて、よさを伝えたり記録したりさせる。 ○リクエストしたものが回答されているものは、リクエスト者に読んでもらう。

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・目的や意図に応じて情報を整理・分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。(B(1)ア)

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指 導 事 項	◆評価規準 ★評価方法 ○指導上の留意点
<p>1 前回までの学習を振り返り、単元のゴールと本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="204 577 673 779" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈単元の学習課題〉 目的や意図に合わせて情報を集め、整理・分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。</p> </div>		<p>○振り返りチェックシートと情報収集シートを基に、本時の見通しをもたせる。</p> <p>○前時の児童の振り返りを基に、情報を整理し、伝えたいことを明確にするためのポイントを示す。</p>
<p>自分のめあて</p>		
<p>2 目的に合わせて情報収集の方法の例示を示す。</p> <p>3 目的に合わせて情報を収集し、伝えたいことを明確にする。</p> <p>・3人組で、それぞれが必要としている情報について助言や質問をしたり、目的に合っているか確かめたりする。</p> <p>4 情報の整理の仕方について考えたことを全体で共有する。</p> <p>(例)・情報の選び方 ・情報の関係付けの仕方 ・順序の決め方 ・相手意識</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>・振り返りシートに課題解決状況と工夫したことを記述する。</p>	<p>・テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にすることができる。[思考力、判断力、表現力等]B(1)ア</p> <div data-bbox="564 1234 887 1765" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>情報付箋の種類(色)</p> <p>▷主張(黄色): コツ、ポイント、方法など</p> <p>▷理由(黄緑): わけ・効果など</p> <p>▷根拠(水色): 経験、インタビュー、データ</p> <p>*上記3色は固定し、他2色は児童が必要に応じて用いる。</p> </div>	<p>○教師が情報収集シートに書き込みながらモデルを示す。その際、順序、根拠、経験等に着目できるように示す。</p> <p>○見通しをもつことや学習方法の調整について考えられるように、個人とグループの時間配分は、各グループで決めさせる。</p> <p>○自分に合った方法で取り組めるように、情報収集シートは、ジャムボードか紙の付箋かを選ばせる。</p> <p>○情報収集シートは数種類提示し、書きたいことに合わせて選べるようにする。</p> <p>○考えに詰まっている児童には情報収集のチェックポイントの掲示物を示し、考えさせる。</p> <p>○全体で共有しやすいように、児童の情報収集シートを提示しながら紹介する。</p> <p>○題材や伝えたいことに沿った意図を明確にもって情報収集している児童を選ぶ。</p> <p>○自分のめあてと情報収集シートを照らし合わせながら、学習振り返りシートに記述させる。</p> <p>◆目的に応じて情報を収集し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>★情報収集シート、振り返りの記述内容</p>